

First Hit

L3: Entry 15 of 28

File: JPAB

Oct 24, 2000

PUB-NO: JP02000297011A  
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 2000297011 A  
TITLE: BLEACHING COSMETIC

PUBN-DATE: October 24, 2000

## INVENTOR-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

HIKIMA, TOSHIO

NAKAGAWA, TAIJI

IGARASHI, SHIGERU

HORIKOSHI, TOSHIO

## ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

KANEBO LTD

APPL-NO: JP11103764

APPL-DATE: April 12, 1999

INT-CL (IPC): A61 K 7/00; A61 K 7/48

## ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain a bleaching cosmetic which inhibits the generation of mela mine due to the UV light damage of skins, stimulates the excretion of melamine pigment and especially expresses an excellent bleaching effect, by including nicotinic acid amide and the extract of wheat germ oil.

SOLUTION: This bleaching cosmetic contains (A) nicotinic acid amide which is obtained by extracting a natural material (for example, rice bran) or by a synthetic synthesis method, and (B) the extract of wheat germ oil. The cosmetic preferably contains the component A in an amount of 0.001 to 10.0 wt.% and the component B in an amount of 0.0001 to 10.0 wt.% (converted into the solid content). The component B may be obtained by extracting wheat germ with water, concentrating the extract and then filtering the concentrated solution. The cosmetic may contain a coloring matter, a perfume, an antiseptic, a surfactant, a pigment, an antioxidizing agent, a moisturizing agent, a UV light absorbent and the like in addition to the components A and B.

COPYRIGHT: (C) 2000, JPO

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号  
特開2000-297011  
(P2000-297011A)

(43) 公開日 平成12年10月24日 (2000. 10. 24)

(51) Int. Cl. <sup>7</sup>	識別記号	F I	テマコード* (参考)
A 6 1 K	7/00	A 6 1 K	7/00
			X 4 C 0 8 3
			D
			K
	7/48		7/48

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平11-103764

(22) 出願日 平成11年4月12日 (1999. 4. 12)

(71) 出願人 000000952

鐘紡株式会社

東京都墨田区墨田五丁目17番4号

(72) 発明者 引間 俊雄

神奈川県小田原市寿町5丁目3番28号 鐘紡株式会社化粧品研究所内

(72) 発明者 中川 泰治

神奈川県小田原市寿町5丁目3番28号 鐘紡株式会社化粧品研究所内

(72) 発明者 五十嵐 滋

神奈川県小田原市寿町5丁目3番28号 鐘紡株式会社基礎科学研究所内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 美白化粧品

(57) 【要約】

【課題】 紫外線障害によるメラニン産生を抑制するとともにメラニン色素の排泄を促し、特に優れた美白効果を発現する美白化粧品を提供すること。

【解決手段】 ニコチン酸アミドと小麦胚芽から得られる抽出物を含有する。

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】ニコチン酸アミドと小麦胚芽から得られる抽出物を含有することを特徴とする美白化粧品。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は美白効果を有する化粧品及び医薬部外品に関する。

## 【0002】

【従来の技術】従来より、肌のしみやそばかす等の予防や治療を目的とする美白化粧品には、L-アスコルビン酸及びその誘導体、ハイドロキノン誘導体、コウジ酸のピロン類、プラセンタエキス等の胎盤抽出物が配合されている。

【0003】これらは、メラニン生成の抑制、生成したメラニンの淡色漂白作用等の効果を有し、美白効果を有する物質として広く知られている。しかし、これらの物質を単独で使用した場合、例えばL-アスコルビン酸及びその誘導体は保存安定性が十分ではなくその効果が十分に発揮されなかったり、またハイドロキノン誘導体は安全性に問題があるなど十分なものではなかった。

【0004】ニコチン酸アミドは公知の物質であり、医薬品として総合ビタミン薬あるいはベラグラ治療、慢性アルコール中毒、狭心症、しもやけ、舌萎縮等に使用されているが、チロシナーゼ活性阻害効果やメラニン生成抑制効果といった美白効果が期待できるかは定かではない。

## 【0005】

【発明が解決しようとする課題】本発明者らは、上記の欠点を解消すべく鋭意検討を行った結果、二成分を有効成分としてなる後記の美白化粧品が、紫外線障害によるメラニン産生を抑制するとともにメラニン色素の排泄を促し、二成分が相乗的に美白効果を発現することを見出し、本発明を完成した。

【0006】すなわち、本発明の目的は、紫外線障害によるメラニン産生を抑制するとともにメラニン色素の排泄を促し、特に優れた美白効果を発現する美白化粧品を提供することにある。

## 【0007】

【課題を解決するための手段】上記の目的を達成する本発明は、ニコチン酸アミドと小麦胚芽から得られる抽出物を含有することを特徴とする美白化粧品である。

## 【0008】

【発明の実施の形態】本発明の実施の形態は、美白化粧品である。以下、本発明の構成について詳述する。

【0009】本発明に用いられるニコチン酸アミドは公知の物質であり、天然物（米ぬかなど）から抽出されたり、あるいは公知の方法による合成により得ることがで

きる。この配合量は化粧品全量中、0.001~10.0重量%が好ましい。

【0010】本発明に用いられる小麦胚芽から得られる抽出物は、例えば水にて抽出し、これを濃縮した後ろ過して得ることができる。但しこの製法に限られるものではない。

【0011】本発明の小麦胚芽から得られる抽出物の配合量は、固形分に換算して0.0001~10.0重量%が好ましい。

【0012】本発明の美白化粧品には、上記の原料の他に、色素、香料、防腐剤、界面活性剤、顔料、抗酸化剤、保湿剤、紫外線吸収剤などを、本発明の目的を達成する範囲内で適宜配合することができる。

【0013】本発明の美白化粧品の剤型としては、クリーム、乳液、化粧水、パックなど化粧品に一般に使用されている剤型であればいずれでもよい。

【0014】また、この美白化粧品は、例えば化粧水の場合、各成分を混合溶解するなど、通常の方法により製造することができる。

## 【0015】

【実施例】以下、実施例および比較例に基づいて本発明を詳述する。尚、実施例に示す%は重量%である。実施例に記載の皮膚色明度回復試験法、官能試験（美白効果）は下記の通りである。また、実施例で用いた小麦胚芽から得られる抽出物の調製方法は以下の通りであるが、本発明の範囲はこれらのみに限定されるものではない。

【0016】（小麦胚芽から得られる抽出物の調整法）小麦胚芽50gを水1Lに1昼夜浸漬しながら放置する。得られた液を濃縮した後ろ過した。これにより、小麦胚芽抽出物15.7g（固形物換算量：0.16g）を得た。

## 【0017】（1）皮膚色明度回復試験法

被験者20名の背部皮膚にUV-B領域の紫外線を最小紅斑量の2倍照射し、試料塗布部位と非塗布部位を設定して各々の皮膚の基準明度（V0値、V0'値）を測定した。引きつづいて塗布部位には試料を1日2回ずつ15週間連続塗布した後、3、6、9、12、15週間後の塗布部位及び非塗布部位の皮膚の明度（Vn値、Vn'値）を測定し、表1の判断基準にしたがって皮膚色の回復を評価した。尚、皮膚の明度（マンセル表色系V値）は高速分光色彩計で測定して得られたX、Y、Z値より算出した。また評価は被験者20名について、3週間後の評価点の平均値で示した。

## 【0018】

## 【表1】

評価点	判断基準
	各週間の皮膚明度の回復値の差が下式を満足する試料
5	$\Delta V - \Delta V' \geq 0.12$ $\Delta V$ …塗布部位の回復値 ( $V_n - V_0$ ) $\Delta V'$ …非塗布部位の回復値 ( $V_n' - V_0'$ )
4	$0.12 > \Delta V - \Delta V' \geq 0.08$
3	$0.08 > \Delta V - \Delta V' \geq 0.04$
2	$0.04 > \Delta V - \Delta V' \geq 0$
1	$0 > \Delta V - \Delta V'$

## 【0019】(2)官能試験

被験者20名が試料を10日間連用した後の試料の特性を評価した。評価は、美白効果のアンケート項目に対し、「美白効果が感じられた」と回答した人数で示した。

\*ニコチン酸アミドと小麦胚芽から得られる抽出物を表2の組成に基づいて配合し、下記の調製方法に従ってスキนครリームを調製した。これを試料として前記の試験を実施し、その結果を表3に示す。

## 【0021】

## 【0020】実施例1～3、比較例1～3

\* 【表2】

原料成分 (A)	含有量 (%)
グリセリンモノステアレート	2
蜜ろう	1
ソルビタンモノオレート	1
ワセリン	2
流動パラフィン	10
原料成分 (B)	含有量 (%)
N-ステアロイル-L-グルタミン酸ナトリウム	1
キサンタンガム	0.2
ニコチン酸アミド	表3に記載
小麦胚芽抽出物	表3に記載
メチルパラベン	0.1
精製水	残量

## 【0022】

※ ※【表3】

	小麦胚芽抽出物 (%)	ニコチン酸アミド (%)	皮膚色明度回復試験 (人)	美白効果 (人)
実施例1	1	0.2	4.4	18
実施例2	10	2	4.5	18
実施例3	0.01	0.001	4.1	17
比較例1	1	0	3.2	10
比較例2	0.01	0	3	9
比較例3	0	0.2	2.5	8

【0023】調製方法：(A)(B)を70℃にて均一に溶解し、(A)を攪拌しながら(B)を(A)に注入して乳化分散した後、攪拌しながら温度30℃まで冷却して調製する。

【0024】特性：本発明の実施例1～3のスキนครリームは前記諸試験において良好な結果を示した。一方、比較例1～3のスキนครリームは、十分な効果が認めら★40

★れず、本発明のスキนครリームに比べて劣っていた。

## 【0025】実施例4 (スキンローション)

表4の組成により本発明のスキンローションを下記の製法によって調製した。

## 【0026】

【表4】

原料成分	含有量 (%)
エタノール	8
モノラウリン酸POE (20) ソルビタン	0.4
メチルパラベン	0.1
香料	0.01
1, 3-ブチレングリコール	4
ニコチン酸アミド	0.2
小麦胚芽抽出物	5
精製水	残量

【0027】調製方法：各成分を混合溶解し、スキンローションを調製した。

☆【0028】特性：この実施例4のスキンローションは、前記諸試験において良好な結果を示した。

【0029】実施例5 (デイエッセンス)

\*【0030】

表5の組成により本発明のデイエッセンス (日中用美容  
液) を下記の製法によって調製した。

\*

【表5】

原料成分 (A)	含有量 (%)
ステアリン酸	0.5
親油型モノステアリン酸グリセリン	1
トリ-2-エチルヘキサン酸グリセリン	3
パラソルMCX *	5
パラソル1789 **	2
流動パラフィン	2
香料	0.05
原料成分 (B)	含有量 (%)
N-ステアロイル-L-グルタミン酸ナトリウム	0.5
グリセリン	5
ニコチン酸アミド	0.1
小麦胚芽抽出物	3
ヒアルロン酸ナトリウム	0.1
二酸化チタン	5
精製水	残量

\*, \*\*: シボダン社製

【0031】調整方法: (A) (B) を70℃にて各成分をそれぞれ混合溶解し、(B) を(A) に加えて混合攪拌し、30℃まで冷却して調製した。

※【0033】

【発明の効果】以上記載のごとく、本発明が、特に美白  
20 効果に優れた美白化粧品を提供することは明らかである。

【0032】特性: この実施例5のデイエッセンスは、  
前記諸試験において良好な結果を示した。 ※

フロントページの続き

(72)発明者 堀越 俊雄  
神奈川県小田原市寿町5丁目3番28号 鐘  
紡株式会社基礎科学研究所内

Fターム(参考) 4C083 AA082 AA111 AA112 AB242  
AC012 AC022 AC102 AC122  
AC212 AC242 AC422 AC442  
AC482 AC662 AC851 AD332  
AD352 CC01 CC04 CC05  
DD23 DD31 EE16 FF05

First Hit

L3: Entry 20 of 28

File: DWPI

Jan 26, 2000

DERWENT-ACC-NO: 2000-452805

DERWENT-WEEK: 200040

COPYRIGHT 2004 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Method for obtaining wheat-germ oil using supercritical extraction combined with rectification

INVENTOR: LI, G; MA, H ; WU, S

PATENT-ASSIGNEE:

ASSIGNEE

CODE

UNIV JIANGSU SCI &amp; ENG

UYJIN

PRIORITY-DATA: 1998CN-0111424 (July 20, 1998)

Search Selected

Search ALL

Clear

PATENT-FAMILY:

PUB-NO	PUB-DATE	LANGUAGE	PAGES	MAIN-IPC
<input type="checkbox"/> CN 1242416 A	January 26, 2000		001	C11B007/00

APPLICATION-DATA:

PUB-NO	APPL-DATE	APPL-NO	DESCRIPTOR
CN 1242416A	July 20, 1998	1998CN-0111424	

INT-CL (IPC): C11 B 7/00

ABSTRACTED-PUB-NO: CN 1242416A

BASIC-ABSTRACT:

The present invention using supercritical CO2 as solvent to extract germ oil from wheat germ is characterized by that the supercritical fluid in which the germ oil is dissolved flows out from extractor, and enters into a rectification column, then is passed through said rectification column so that the germ oil components can be accurately separated according to the solubility so as to implement concentration of object components of vitamin E etc.

CHOSEN-DRAWING: Dwg.0/0

TITLE-TERMS: METHOD OBTAIN WHEAT GERM OIL SUPERCRITICAL EXTRACT COMBINATION RECTIFY

DERWENT-CLASS: D23

CPI-CODES: D10-A01;

SECONDARY-ACC-NO:

CPI Secondary Accession Numbers: C2000-138125